

安全管理体制の強化と安全意識の向上 (ソフト面の対策)

- 1 安全管理体制の強化
- 2 安全教育・事故対応訓練、安全文化醸成
- 3 第三者による安全監査と安全評価

安全管理組織の強化

○ 安全を統括する副センター長の配置

- 一元的な安全管理
- 施設の運営組織と安全管理組織の独立

○ 安全管理組織の強化

- 安全関係の人員増
- 24時間連続の放射線監視体制

○ 緊急時における責任者の明確化

- 施設管理責任者が指揮責任者
- 責任者(代理)が常時対応可能な体制

○ 放射線安全評価委員会の設置

- 異常事態の想定を含む**綿密で専門的な**放射線安全評価を実施
- **外部有識者**を含む専門家メンバーで構成
- 特定の事項を検討するための**作業部会**を設置
〔継続的：2部会、短期的：6部会〕



放射線安全評価委員会
H25年11月～（8回開催）

○異常事態発生時における対応の整備

注意体制の導入

↑
事象の深刻さ



➤ 事故の兆候段階で関係者を招集し、情報収集と分析、施設管理責任者による判断を行う。

➤ 注意体制設定要件の明確化
(判断に迷う場合には設定)

設定要件に該当する事象が発生した際には、直ちに注意体制を設定し対応している。事故体制につながる事象はなかった。

安全教育

○ 放射線業務従事者教育

- 理解度確認テストを実施
- 外国人従事者のために、英語による教育も実施

○ 各施設における運転マニュアル等の教育

○ 利用者等への教育

- 安全の原則を徹底するように教育

○ ユーザに対する説明と討議

ユーザと安全に関する情報の共有を進め、より高い安全環境の実現につなげる。

事故対応訓練

- ニュートリノ実験施設における放射性物質漏えい事故想定訓練
 - ・外国人ユーザも参加 (H26. 1/20)



現地対策本部の様子
(原子力科学研究所安全管理棟)

- 物質・生命科学実験施設における茨城県通報連絡訓練 (無予告; H26. 7/22)

- ハドロン実験施設で放射性物質漏えいを想定した訓練 (H26. 11/25)
 - ・ J-PARC、原科研との合同訓練、自治体関係者の方の視察
 - ・ KEK(つくば)との連携 (TV会議の接続)

訓練で得られた教訓は、異常事態発生時の対応及び次回の訓練にフィードバックする。

安全文化の醸成

○安全文化醸成研修会(H26. 5/23)

安全文化とは何か等について掘り下げた講演・討論。
研修会後のアンケートでは、有意義であったとの声が
多数寄せられた。

○加速器施設安全シンポジウムの開催

- ハドロン事故の**教訓**を加速器施設の関係者と**共有**。
- 加速器施設における安全管理の経験や課題についての**情報交換**

加速器施設の安全を高めるために有効、継続の要望。

→ **毎年度開催**

第2回シンポジウム(H27. 3/6)では、
全国の主な加速器施設と海外の大型加
速器施設から発表。116名の参加者



- **J-PARC安全監査の実施** (H26. 10/21; 毎年度実施)
 - 監査員: 外部有識者(2名)
 - 監査内容: 安全管理体制等の有効性と定着度
新たな安全管理体制は有効に機能し、緊急時・異常時への備えや安全文化の醸成は適切に進められている。

- **漏えい事故検証に係る有識者会議(第7回)** (H26. 10/29)
 - 委員: 外部有識者(6名)
 - 平成25年8月に、両機関の長に答申書を提出
 - ・答申書に沿って、施設設備の改修、及び安全管理体制の見直しが行われたものと判断する。
 - ・再開にあたっては、地域住民に誠意ある丁寧な説明をし、地元からの理解を得ること。